

No. 2916

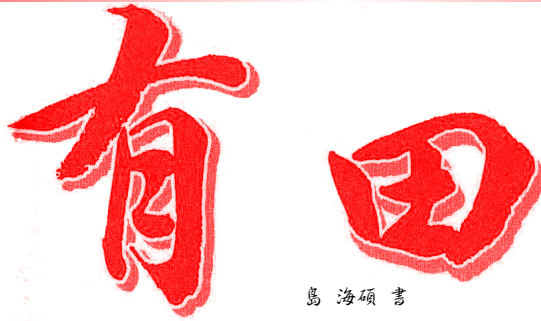
2018-2019年度

会 長 上野山 栄作

幹 事 嶋田 崇

R広報委員長 菅原 佳典

担当：児島委員、菅原委員長



島海碩書

第2640地区

例会日 毎週木曜日 12:30
 例会場 紀州有田商工会議所6F
 〒649-0304
 有田市箕島33-1
 紀州有田商工会議所2F
 有田ロータリークラブ
 Tel (0737) 82-3128
 Fax (0737) 82-1020
 創 立 昭和34年6月15日
 ホームページ <http://www.aridarc.jp>
 e-mail office@aridarc.jp

～ 四つのテスト 言行はこれに照らしてから ～

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか



2018-2019年度クラブ方針

Take Action and Enjoy!

行動を起こそう！そして楽しもう！



次回のお知らせ

令和元年7月11日 第2918回

・委員会活動計画の発表

・ソング：「それでこそロータリー」

本日のプログラム

令和元年7月4日 第2917回

- ・初例会
- ・新旧引継・橋本拓也会長 クラブ活動方針
- ・ソング：「君が代」「奉仕の理想」

前回の報告（第2916回例会）

開催日 令和元年6月27日(木)

点 鐘 (上野山(栄)会長)

ゲストの紹介 (石垣(泰)親睦活動委員長)

ゲスト:任泰然君(米山奨学生)

森本真輔様(ノムクラフトブリューイング社長)

金子巧様(ノムクラフトブリューイング)

会長の時間 (上野山(栄)会長)

本日は悪天候の中、最終例会にお越しいただき有難うございます。また、FAXでの警報時の書面につきまして、誤りがございましたことを深謝いたします。

本日は任泰然君、ノムクラフトの森本社長、金子さん、ようこそお越しくださいました。

つい先日、ゴンザガ大学の八村塁選手は日本人初のNBA(アメリカプロバスケットボール連盟)のドラフト1巡目指名を受けワシントン・ヴィザーズに入団しました。小学校時代は野球をしていたのですが、中学時代にバスケットボール部の監督に「NBA選手になれる」と洗脳を受け、見事に快挙を成し遂げました。高校時代の彼も凄かったですが、アメリカに渡ってからの成長ぶりは恐ろしいものがあります。最近では大谷翔平さんの快挙がメディアから聞こえてきますが、今までの日本のバスケットボールの歴史において、それを上回る出来事だと思います。彼は中学時代の監督に自分の使命を見出してもらったのだと思います。努力した本人の頑張りはもちろんのこと、才能を見出し、彼の人生に使



命を与え、日本バスケットボールの歴史を変えた監督に敬意を評します。

人生における使命(MISSION)とは、自分自身が決める今世(こんぜ)での役割のことです。具体的に表現すると、「自分のどのような長所を活かして、どういう人に何をもたらすのか」です。考え方によっては使命とはありのままに生きている事であると考え人もいます。

しかし、人には使命があると考えた方が生き方に目標が出来、充実した人生を送る事が出来るのではないのでしょうか。のんびんだらりと生きる人よりは、使命に目覚め、そのように生きる人は、情熱と喜びで輝き出します。そして、自然体でありながら、流れの中で自己実現を達成していきましょう。使命を生きる人は、外から見ると辛い状況にあっても幸せを感じています。正しい道を進んでいる、成長している、と魂が喜んでいるからです。

ある程度の年齢になれば自ずと使命が見えてくるものだと思います。皆さんの中でも、自分の使命(生きている理由・今世での役割)が何なのか、すでに自分で答えをお持ちの方がほとんどではないかと思えます。多くの方は仕事と結びつける事が多いのかもしれませんが、私の場合は40歳半ば頃、社内に理念経営を取り入れた頃から自分の役割がより明確になったように記憶しています。実は私がここ有田ロータリークラブに入会させて頂いたのも、自分自身の使命に気づかされたことが理由のひとつです。

ここまでお話しすると私が考える人生の使命を公表した方が良いでしょうか？私の使命は「絆づくり」だと考えています。そして、その方法としてのキーワードが「共存」であります。多くの方々が共に幸せに存在し、強い心の繋がり、結びつきを作っていくことです。

本年度のクラブターゲットにも、私の使命を意識させてもらいました。後ほど一年を振り返らせて頂きます。

幹事報告 (嶋田(崇)幹事)

1. 地区より募集依頼のあった「意義ある奉仕賞」に、本年度当クラブは「ロータリーデー事業」で応募し、見事受賞することができました！来年の地区大会で表彰されます。

委員会報告

*情報・研修委員会(脇村委員長)

「欠席のメイクアップに関する規定を改正する件」の運用
本年度(2019年)の規定審議会において、「欠席のメイクアップに関する規定を改正する件(19-35)」が採択され、「例会の定例の時の前、14日または、後14日の規定を、同年度以内に変更する」に改正されました。これを受けて、去る6月20日(木)の当クラブの臨時理事会にて審議していただいた結果、本制定案の次年度からの運用が賛成多数で承認されました。

すなわち、ホームクラブの例会を欠席した場合、現在は、その例会の前後14日以内に他クラブの例会へ出席するなどしてメイクアップをしなければならないが、今回の改正によりメイクアップできる期間が同年度以内まで拡大されるので、より柔軟にメイクアップすることが可能となり、出席率の向上が期待できます。

しかしながら一方で、欠席のメイクアップを同年度以内まで拡大すると、厳密に言えば、各月の最終出席率が確定するのは年度末(6月末日)まで待たなくてはならず、現在、「ガバナー月信」に記載されているクラブ毎の出席報告そのものが意味をなさないこととなります。また現行では、6月末の例会を欠席した場合、14日以内でさえあれば次年度の7月に入ってからでもメイクアップができましたが、今回の改正ではそれは不可能となります。

以上、説明しましたように「欠席のメイクアップに関する規定を改正する件」には一長一短はありますが、次年度から運用を開始するに当たり、会員の出席管理をいかにして抜け落ちなく行うかなど具体的な運用方法について、例会運営委員会を中心に早急にご検討をお願いします。

*創立60周年記念誌部会(脇村委員長)

創立60周年記念誌への投稿依頼

先にお願いました60周年記念誌への投稿について、①現会員の一言(100~150字)、②51~60代各会長の回想(2000字前後)の未提出の方々は、7月中旬までに提出いただきますようお願いいたします。

*会長エレクト(橋本会長エレクト)

次週7/4は初例会です。皆様、ネクタイ着用でお越し下さい。また、役員・理事の皆様、当日11時30分より経済クラブにて第1回定例理事会を開催します。よろしくお願致します。

出席報告 (木本例会運営委員長)

本日の会員数31名

(出席規定免除会員9名)

出席会員数26名

(出席規定免除会員7名)

96. 55%

6/13 90. 32% MU:なし

ニコニコ箱の報告 (松村SAA)

上野山(栄)君:会員皆様のご協力のもと1年有田RCを運営することが出来ました。本当にありがとうございました。

嶋田(崇)君:一年間お世話になりありがとうございました。会長さん、結構な品ありがとうございました。

木本君:上野山会長、嶋田幹事、一年間有難うございました。本日の最終例会、宜しくお願致します。

児嶋君:最終例会ということで、上野山栄作会長、嶋田崇幹事、各委員長の皆様、一年間ごくろう様でした。

橋爪(誠)君:上野山栄作会長、嶋田崇幹事、一年間本当にごくろう様でした。パワフルな一年でした。

石垣(洋)君:上野山会長様、嶋田幹事様、理事役員の皆様、一年間御苦労様でした。会長様、おみやげありがとうございます。

上野山(捷)君:役員の皆様、一年間お世話になりました。ありがとうございました。会長さんからの記念品ありがとう。

岩橋君:上野山会長、嶋田幹事、1年間御苦労さんでした。会長記念品、ありがとうございます。

橋本君:上野山栄作会長、嶋田崇幹事、役員・理事の皆様、一年間お疲れ様でした。

脇村君:IM、周年記念など大変いそがしい1年となりました。おつかれさまでした。

丸山君:上野山会長、嶋田幹事はじめ役員様、1年間お疲れ様でした。今回の最終例会は大雨ですが「恵みの雨」ということで。

菅原君:上野山会長、嶋田崇幹事、一年間お疲れ様でした。

中村君:上野山(栄)会長、嶋田幹事、理事役員の皆様、1年間お疲れ様でした。

橋爪(正)君:上野山会長、嶋田幹事、一年間御苦労さまでした。

川口君:本日の最終例会、宜しくお願致します。本年度はいろいろありましたね。

成川(雅)君:ありがとうございました。

児島君:上野山会長以下役員の皆様、一年間ご苦労さまでした。

北畑君:上野山会長、お疲れ様でした。本日の最終例会よろしくお願致します。

福原君:会長、幹事、一年間お疲れ様でした。ありがとうございます。

嶋田(恵)君:上野山栄作会長、嶋田崇幹事、一年間お疲れ様でした。新人の私にも丁寧色々教えて下さってありがとうございました。

嶋田(ひ)君:上野山会長、嶋田幹事、一年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

上野山(英)君:栄作会長、嶋田幹事、ご苦労様でした。そして心付けを有難うございました。

成川(守)君:上野山会長、嶋田幹事、理事会の皆様、一年間ご苦労さまでした。

宮井君:最終例会です。会長、幹事、役員の皆様、一年間ご苦労さんでした。会長さん、記念品ありがとうございます。

井上君:今年も一年お世話になりました。

中元君:上野山栄作会長、嶋田崇幹事、一年間本当に

お疲れ様でした。ありがとうございました。次年度への御協力をどうぞよろしくお願い致します。
松村君：上野山会長、嶋田幹事、1年間おつかれ様でした。

一年を振り返って

「1年をふりかえって」

2018-2019年度 有田ロータリークラブ
幹事 嶋田 崇 君

本年度2回目の幹事を務めさせて頂きました。1回目は15年前で、創立45周年の時でした。45周年事業は、当時営業していた矢櫃の有田観光ホテルで開催され、式典・講演会・懇親会というプログラムで挙行され、楽しかった思い出があります。講演会では和歌山県出身の歴史小説家で直木賞作家でもある津本陽先生にご講演頂きました。懇親会では、私はスポンサークラブの会長・幹事と一緒にテーブルで、その時の和歌山RCの幹事が今の樫畑ガバナーでした。そして今年60周年。彼はガバナーになり、私は2回目のクラブ幹事で何か不思議な縁があるように感じます。



次に今年の幹事としての活動です。毎例会での幹事報告については、特に必要なことのみを心掛けました。必要でないと思われる情報は、私の判断でカットし、クラブや会員に必要な情報のみをお知らせ致しました。

また、今年は例年以上に事業の数が多く、会員の皆様方には多大なご負担をお掛けしたと思います。各々の事業には委員長がいますので、事業の実施は委員長にお任せし、私はロータリーの基本中の基本である例会運営を上手くこなすことが私の大きな役目と考え、例会運営委員長の木本さん、SAAの松村さんと連携を取ってスムーズな運営を心掛けてきました。

具体的な事業については、会長よりご説明がありますので私からは省かせて頂きます。最後の纏めとしてお話しします。今、当クラブは世代交代の真っ最中であると思えます。近年、成川直前会長をはじめ歴代会長さんのご協力を得て会員増強ができ、その中でも懸案事項だった女性会員の入会も複数名ありました。会員構成という意味では、非常にバランスの取れたクラブになったように思います。数年後には世代交代も終わり、さらにパワーアップした有田RCに生まれ変わっているものと確信しています。

最後に今一度お世話になりました皆様方に心よりお礼申し上げ、幹事としての最後の言葉と致します。有難うございました。

ルの数字も例年になく奉仕時間を積み上げています。会員の皆様に無理をさせてしまった点、多々あったと思いますがお許しください。本年度のクラブテーマは「Take Action and Enjoy!」でありました。私自身は本当に充実した行動を起こし、そのハードさが充実(楽しみ)を生んだ年でありました。多くの方々に感謝を申したいのですが、先ず感謝したいのは、嶋田幹事です。大先輩でありながら2回目の幹事を快諾して頂き、影のサポートに徹して会長を立ててくださり、卒なく誘導して頂きました。嶋田幹事がいなければ本年度の会運営は出来ていなかったと考えます。そして全ての会員の皆様に感謝を申し上げたいと思います。



本年度の成功点は、①60周年の記念事業、記念式典・祝賀会が無事に運営出来た。②2名の新入会員を迎え入れる事が出来た。③第2分区IMの開催クラブとして運営が無事に行えた。④他事業多数の中で通常同様に委員会事業も活発に行えた。という点であります。逆に反省点は①委員会の指導やフォローが少なかったのではないかと。②後半の例会を60周年のクラブ協議会に費やさなければならなかった。③もう少しバリエーションに富んだ卓話者が必要だった。④新会員と先輩会員との親睦を十分に深めることが出来なかった。というところが挙げられます。

本年度の例会回数は41回でした。その中でも当初目標であった地元で頑張る若手の卓話を6回入れることが出来ました。ロータリー関係者の卓話も成川直前会長のおかげで充実した5回を開催しました。会員卓話は4回でした。例年よりも卓話自体は少ない回数ではありましたが充実したプログラムであったと考えています。

次に委員会活動を振り返りますと、周年やIMのある中で、実に充実した事業を各委員長様の御助力で行われています。特に橋爪誠治国際奉仕委員長始め7名の会員で行われたミャンマー国際奉仕事業は有田RCの看板事業となりました。オーガニック農法の研修、昨年の研修村での検証、孤児学校への寄付事業と子ども達とのふれあい、米山学友との友好と多くの成果を生みました。また、3月15日箕島高校での職業紹介事業「キャリアシミュレーション仕事にふれよう！」はロータリーデーの高校生発表からヒントを得て、職業奉仕委員会と社会青少年



「一年を振り返って」

2018-2019年度 有田ロータリークラブ
会長 上野山 栄作 君

本年度は本当に皆さんの時間を奉仕活動に使って頂きました。マイロータリーに打ち込んでいるクラブセントラ

委員会の合同事業として会員事業所の協力のもと開催出来ました。その他、本当に多くの事業を完成させていただいた各委員会、委員長様、有難うございました。又、10月24日地区大会ではRI会長賞を始めとし沢山の表彰を頂きました。昨年度の栄誉であると思います。そして、本年は第2分区のIMの主催をさせて頂きました。テーマを「地域社会に根ざし、世界に羽ばたくクラブを目指して」とし、分科会の後、基調講演「ロータリーの変革」を釧路RCの足立功一PDGにお願いし、その後、各ロータリークラブ代表者の意見交換会が行われました。開催にあたり脇村特別実行委員長はじめ実行委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。第2分区のお手本となれるIMとなったのではないのでしょうか。

創立60周年記念の諸事業の説明に移ります。まずは、上野山英樹実行委員長、橋爪正芳副実行委員長には体調の悪く中でも関わらず、本当に色々なご指示を頂きありがとうございました。また、成川守彦実行委員長代行にも実行委員長不在の間、ご指示いただき、大変心強く事業ができました。いくつかの複合事業による周年記念事業でしたが、まずはロータリーデーから説明いたします。準備段階は3月頃より計画し、和歌山大学の観光学部の木川准教授にも相談しながら企画いたしました。新年度、始まってすぐの7月26日、大人たちへの政策提言「僕らが有田を楽しませよう！」を開催。川口部会長はじめ、橋爪誠治副部会長、学校周りなど、校長先生の考え方の違いや、教育委員会のあり方など非常に困難な問題をクリアしてくれました。また期間中、学生と関わりを持って1ヶ月のロングランで支えてくれた会員方には、世代間ギャップもあり難しい中で、最終10グループの発表に至ったのは皆様の努力の賜物であろうと感謝いたします。当初目的であった地元学生に地域愛を抱いていただくことが出来ました。また、この事業は2640地区の「意義ある会長賞」にも選ばれ、多くの方々にインスピレーションを与えたと感じています。3月7日には有田市文化福祉センター前への時計塔の寄贈を雨の中に行いました。会員の事業所の社員様にもご協力を頂き、除幕式は盛会でありました。3月31日は記念親睦家族旅行「弥生新緑の旅」とし、河内ワイナリーと奈良県五條市の散策と五條源兵衛での食事会でゆっくりとした時間を親睦に使いました。4月4日の法要例会では4名の物故会員の法要を行い、児島さんのお話に感動し、物故者ご家族とも和やかに食事が出来ました。そして、5月12日、遂に記念式典を迎えることとなりました。前半に記念事業「まちづくりサミット」を開催しました。ロータリーデーのプレゼン最優秀チーム「高校球児プレゼンツ」の4名のプレゼンから始まり、ありだグッドクリエーション賞の授与、その方々によるプレゼンテーション、その後、望月市長を交えてのパネルディスカッションでした。200名近い来場を頂き盛会で、各方面からも評価を頂きました。そして、記念式典では冒頭に60年を振り返るムービーを作成し、歴史を感じて頂きました。作成にあたり私自身も長い歴史を振り返る良い機会となりました。発表したビジョン策定委員会作成の中期ビジョンは今後も大切にしたいと考えます。岩橋会員に永年功労者表彰を、成川守彦会員に会員増強功労者表彰をお送りすることが出来ました。その後の懇親会も

和やかに楽しい時間を過ごせたと考えます。本当に沢山の方々との出会いが私の財産になった一年であったと思います。

ステーブ・ジョブスの名言の中に共感できる言葉があります。「最も重要なのは、自分の心と直感を信じる勇氣を持ちなさい。それはどういうわけかあなたが本当になりたいものをすでによく知っているのだから。」という言葉です。成果を生み出すには、市場調査に頼るのではなく、誰かを信用するのでもなく、自分の直感を信じて、行動に移し、そしてやり遂げる信念を持つ事が重要なのです。正に、私のロータリー感「ロータリー実行主義」自らを信じ、何かをやり遂げることに価値があると考えています。自分の周りに、地域に、何かのためになる実行力が大事だと考えます。自分の時間を使う＝命を使うです。大切な時間(命)を使うわけですから、自分を信じてやり遂げ、そして結果を出しましょう。それが正解かどうか結果を出さなければ解らないし、失敗したとしてもやり直したら良いのだと思います。

皆さんの時間の多くを使って頂いた事業は、地域に対して多くのインスピレーションを生み出したと私は思います。結びに、本年度は本当に有意義な一年でした。最後に皆様のご協力に今一度、感謝申し上げます。

Take Action and Enjoy!



閉会・点鐘 (上野山(栄)会長)



～懇親会～

乾杯の挨拶 (成川守彦直前会長)

では、直前会長ということで、「乾杯」の発声をさせて頂きます。

心配された天候も大したことなく良かったです。

まずは、先程の会長、幹事のご挨拶と報告にありましたように、今年度、60周年という大きな節目の年で、記念事業・記念式典等盛大に開催されました。その上、IMの担当、有田地区3クラブのゴルフコンペ、規定審議会の開催による定款・細則の変更等々ございましたが、会長はじめ理事会



の皆様、並びに会員の皆様のご支援ご協力で、見事に乗り越えられました。ご苦労様でした。特に栄作会長は全力投球をされたと思います。ありがとうございます。

他方、年末の上野山英樹君と橋爪正芳君の病気の発病には、驚きました。周年事業はどうなるのかと。お陰様でお二人はお元気になられ、周年事業は無事に終えることが出来ました。

さて、今から86年前の、**1933年6月27日**、ボストン(米国)で開かれたロータリー国際大会で**ポール・ハリスが演説し、国際理解と寛容の精神が世界各国のロータリー会員を結びつけている**と語りました。この演説は、ロータリー国際大会の演説としては**初めてラジオ放送**されました。ハリスは、自宅でラジオを聴クリスナーに向け、**ロータリーを通じて文化の壁を超えた友愛を実現できると呼びかけました。「同胞である人間への愛を心に抱いているなら、あなたは潜在的なロータリアンです」**

(ハリス演説)

この放送をお聴きの皆さんに向けてお話しでき、大変光栄です。私たちは、世界のほぼすべての文明国からここボストンに集まりました。英国諸島、中国、日本、ヨーロッパ諸国と南米諸国、オーストラリア、ニュージーランドなど、**40カ国以上**が代表されており、帰国したら地球を一周することになるという代議員もいるでしょう。**真にインスピレーションあふれる機会です**(ここで、インスピレーションという言葉が出ています)。この集まりに触れ、私の心は、**28年前にシカゴで開かれた最初の例会へと自ずと舞い戻ります。そのときの出席者は4人。小さなどんぐりからも大木が育つものです。**

ロータリアンではない人びとの関心をかきたてるロータリーの特徴は、おそらく**2つ**あるでしょう。一つは、それぞれの生業や職業の代表1名がロータリー会員になるという、いわゆる**「職業分類」**です。もう一つは、**人種や政治的、宗教的立場がロータリー入会の妨げとなつてはならないという規定**です。これら2つの規定を通じて、ロータリーは、あらゆる職業や地位、あらゆる国、あらゆる形式の宗教の代表者に開かれています。しかしこのことが、ありとあらゆる不和をもたらすのではないかと考える方もいるでしょう。実際、知恵ある人間がこれほどの危険をはらむ組織を作り出すことなどあり得ない、と多くの方がおっしゃいました。ロータリーの才知と栄光は、まさにここにあるのです。

その仕組みはごくシンプルです。ロータリアンは多くの点で異なる者同士ですが、二つの点で完全に一致しています。**第一に、すべての国を尊敬すべきであり、他国との取引において高潔でありたいと願っているとロータリアンは信じていること。**また、誰も各々の良心に基づいて神を崇める権利があると信じています。言い換えれば、**ロータリーとは寛容の精神を表しているのです。第二に、ロータリアンは、すべての高潔な職業は、社会への奉仕に使われるのならば、その真価を認められる権利があると信じています。**

こうした点で十分な同意が築かれているため、不和はほとんど耳にしません。ロータリーは、このような同意点を重視し、論争を引き起こす問題は避けます。

(ロータリーの例会では、政治と宗教の話はしない!)

ですから、ロータリーが人びとの共通項となって、誰もが安心して身を寄せられるのです。カトリック教徒、プロテスタント教徒、ユダヤ教徒、それ以外の教徒が親しい会話を楽しむべきではないという正当な理由などあるでしょうか？ロータリーでは、これが行われています。カトリックの牧師、ユダヤ教のラビ、プロテスタントの牧師が、ロータリークラブ例会で肩を並べて座り、楽しい親睦をともにしています。インドを旅すれば、イスラム教徒、ヒンドゥー教徒、キリスト教徒がパンを分ちあっている姿を目にするでしょう。これこそ本来あるべき姿ではないでしょうか？

「地の上に、御心にかなう人びとに平和があるように」という言葉をお出ししてください。簡単に言えば、ロータリーは、この**ロバート・バーンズ(※)**の言葉を現実に行おうとしているのです。この言葉を覚えておいてください。人類が兄弟となる日がいずれ来るでしょう。

(※)ロバート・バーンズ(Robert Burns、1759年1月25日 - 1796年7月21日)は、スコットランドの国民的詩人。バーンズはスコットランド南西部サウス・エアシャイアで生まれた。彼は『蛍の光』、『故郷の空』を作詩したとされている。

ロータリー会員でない人は、よくこう尋ねます。「どうやって実現できたのか？」と。これは答えるのが難しい質問です。答えの一つとして、**ロータリーの魅力は、会員がありのままの自然体でいること、自分らしくいることが奨励されていることです。**わざとらしさが蔓延したこの世界で、冷たい、無意味な形式主義者ではない人たちと出会えるのは新鮮です。**誰にでも少年の心があり、その心を引き出す最善の方法は、友情に満ちた自然な会話なので**す。

西洋と東洋、凍てつく北の国から赤道直下の国まで、ありとあらゆる国から大勢が集まって楽しんでいるこの大会を見ながら、私が感じているこの誇りを、皆さんにもぜひ感じていただけたらと思います。夫婦で来ている人も大勢います。互いに手をつなぎ、皆あふれんばかりの笑顔を浮かべています。もし(ラジオを聴いている)皆さんがここにいたら、**エアシャーの大詩人(※)**の言葉が単なる夢の表現ではなく、むしろ予言的であること、そして人間の最良の概念、普遍的な親善と平和の概念は、いつの日か実現するという私の結論に、きっと賛同して下さるでしょう。

究極的に、ロータリーは生き方であり、良き、自然で、健全で、友情に満ちた生き方なのです。この世界には、まだロータリアンとなっていない潜在的なロータリアンが大勢います。**その多くの方が、今、この放送を聞いておられます。同胞である人間に対する愛を心に抱いているなら、あなたは潜在的なロータリアンです。**

・・・という演説でした。

最後に アーサー・シェルドンの **モットー** ” He(One) profits most who serves best “ の言葉がありますが、私は、” He(One) profits most who attends most “ (最も多くのロータリーの会合に出席するものは、最も多く報われる)という言葉をお贈りし、乾杯の音頭をとらせていただきます。

「有田ロータリークラブの益々の発展と会員皆様のご健康とご多幸を祈念して、乾杯！」